

第 16 回松戸駅周辺まちづくり委員会 会議内容

1. 日時

令和 6 年 3 月 29 日（金）

2. 議事

諮問事項

新拠点ゾーン パブリックスペースから考える、松戸中央公園及び相模台公園
のリニューアルについて

- ・ 水・みどり・歴史部会におけるこれまでの活動報告
- ・ 水・みどり・歴史部会における審議内容の報告
- ・ 全体スケジュールについて

3. 審議の進め方に関する意見

- ・ 市役所は市民が集う場所の 1 つであり、また、公園には様々な世代の人々が訪れる。
このことを前提にして、公園づくりを考えることは必須のプロセスになる。よって、
市役所の移転の有無が決まらない段階では、当然ほかの要素のまちづくりも考えられ
ないだろう。
- ・ 「集う」とはどういうことなのかを今一度考えながら、新しい施設の在り方について
考える必要がある。
- ・ 公園と施設（新庁舎等）を密接に連携させるという認識を持つ必要がある。
- ・ 松戸市は庁舎と公園を合わせて検討することで、イノベーティブな空間ができる可能
性がある。他市にはない独自性を考えたい。

結論

- ・ 南側の用地の土地利用のあり方というのが決まらないことにはなかなか具体の動き
ができない状態である。よって、南側の用地の土地利用が決まった時点から起算し、
この委員会又は、部会を開催する。

4. その他の意見

(1) 公園のリニューアルに関すること

① 公園の機能について

- ・ 自然との共生という視点の中で、新拠点ゾーンの公園で「くつろげる」ことが利点。
- ・ SDGs やカーボンニュートラルという観点からも公園の在り方を考えたい。
- ・ 公園は、周辺住民にとっても、この場所に遊びに来る人にとっても「拠点」となる場
所にしたい。

- ・ あったら良い理想系の項目と、安全、安心、ユニバーサル、防災など欠くことのできない項目がある。それをどのように整理し、具現化するのは、別途検討する場があった方がよい。
- ・ 様々な要望があるが、新拠点ゾーンで、全ての機能を担うことはできない。この場所で担うべき機能について議論を集約することが非常に重要。
- ・ 難しい問題であるが、公園で「何ができるのか、できないのか、許す、許さないのか」について、考える必要がある。

② 周辺施設との連携等について

- ・ 将来、駅や周辺からのアクセスをどうするのか、周辺の地域や施設と新拠点ゾーンの連携は重要。
- ・ 松戸駅周辺施設や新拠点ゾーンの商業施設等をふくめ、この公園をどう生かせるのか検討することが必要。
- ・ 周辺の施設と相乗効果が生まれる公園づくりが望まれる。
- ・ 新拠点ゾーンや、坂川、江戸川、文化施設などを連携させることで、駅隔てた東西の回遊性を確保することが重要であり、回遊性の向上が地域経済の振興につながる。その中で、公園をどう生かすか。

③ アンケート調査等（市民意見）について

- ・ アンケート調査の結果、ネガティブな意見が多いということは、言い換えれば、良い公園にして欲しいという市民の期待。
- ・ コロナ禍を経験し、新しいまちづくり、公園づくりを考えるとき、そのゴールや正解を見つけることは、非常に難しい。このことから、アンケート調査の結果から、新しいアイデアを考え出すクリエイティブなプロセスが必要となる。
- ・ 木が多ければ、当然見通しが悪くなり、防犯上危険であるという意見があり、一方では、なるべく木を切るなという意見がある。そのような矛盾が今後 1 つの論点になる。慎重に扱っていく必要がある。